



関西 ECOMAIL

環境教育学会関西支部から関西の会員の皆様に、ワークショップのお知らせと関西の環境教育に関わる情報交換をしていただくために発行しています。

また学会員外の方々に環境教育に関心を持っておられる方や実践をされている方のコミュニケーションも広く回りたいと思います。

1000円の通信費(1年分)をいただきましたら、ワークショップの案内票等と ECOMAILを送らせていただきます。

(通信費振込先…郵便局「大阪 9-37886」環境教育学会関西支部)

☆第2回研究大会(12/11)のお知らせ・・・6～7ページ

第30回 関西ワークショップのお知らせ

日時 11月20日(土) 午後3時～5時

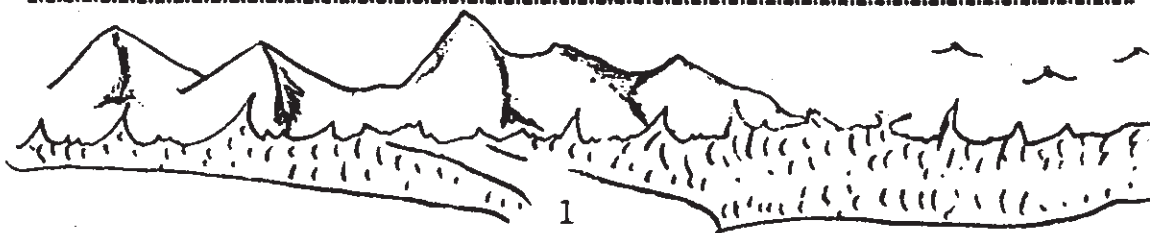
話題提供者 浦西 勉氏(奈良県民俗博物館)

テーマ 山村の歴史的景観考 —吉野郡大塔村の民俗調査—

会場 大阪教育大学(天王寺キャンパス)

(JR環状線寺田町駅下車西へ徒歩3分、または天王寺駅下車北東へ徒歩7分)

現在、浦西勉氏は奈良県民俗博物館で主任学芸員をなさっています。大和の民俗研究を多年にわたりなさっておられ、その視点から環境問題についての研究をなさっています。有意義な時間を皆さんと作れると思います。お問い合わせの上、ぜひご参加下さい。



今、子ども達に何が必要か —期待される感性を育てる環境教育—



藤岡 達也 (小・中・高ネットワーク委)

「子ども達の感性が危ない」今、教育現場に携わっている人達から、しばしば、このような声が聞こえる。世間では、環境教育がようやく市民権を得て、多くの立場の人達からさまざまな意見や取り組みが寄せられるようになった。当然ながら家庭教育・社会教育と共に（場合によっては、それ以上に）学校教育にも期待（非難？）がかけられる。しかし、学校教育では環境教育以前の問題が山積みし、学校だけでは、どうにもならないことが多い。むしろ環境教育は家庭においてその基盤が培われると言っても良いだろう。

E・E関西の発足とほぼ同時に、小・中・高の教育現場の人間が校種間を越えて、教育問題を話し合う機会を持つことが可能になった。（「小・中・高ネットワーク」の発足の経緯と今後の活動については、別の時に詳しく報告したい。）当初、現在の学校教育の中で、一人の人間の成長に、どのような連続した環境教育が可能かを探ることが自分のネットワーク結成時の期待の一つであった。しかし、最近では、環境教育によって今の教育に何とか一石を投じえないかを真剣に考えるようになってきている。

その一つに感性を育成する教育の重要性をあげたい。これは多くの人が述べていることで決して新しいことでも何でもない。しかし、教育現場において常に痛感することである。学校教育ではややもすると知性の育成が感性の育成よりも重視されるきらいがある。現在、欠如している子ども達の感性の具体的な例については、日々、子ども達と接している人達にとっては実に多くの事例があげられるだろう。

自分は、その中でもあえて「怖いもの、美しいもの」を知らずに育った子ども達の問題点をあげたい。特に自然の恐さ、美しさをどう子ども達に感じさせるかを考え、環境教育の中で取り込むことに模索している。ある地質建設業者が「経済優先の現在では、合法的にいくらかでも環境に悪いことができる。しかし、本当に美しいものを知ってしまった人間は、そういうことはできない。」と言うのを聞いたことがあるが、この発想は興味深い。

さて、どのようにすれば今の子ども達に自然の本当の美しさを教えることが可能であろうか。今後、取り組まねばならない環境教育の一視点である。

ごみ問題を考える

— 文明社会から文化社会への転換を！ —

ヒトに限らず生物はLewin's Law 即ち $B = f(P \times E)$ (但し、 $B = \text{Behavior}$, $P = \text{Personality}$, $E = \text{Environment}$) にのっとり行動をされると言われている。

例えば、微生物の場合であれば、至適温度、至適PH、至適濃度等の条件が満たされれば満たされるほど、生育あるいは増殖がべき乗の速度で増加する。

また、ヒトの場合でもEnvironment (環境) の影響をモロに受け、行動あるいは行為を成すものである。

私の20才代は、E (環境) に一切、支配されない行動なり、行為をすべく、 $E \rightarrow 0$ に可能な限り近づけ、 $B' = f(P)$ なるLewin's 変法に乗っ取った行動を行なったことがあった。もっと具体的に述べると、A (但し、 $A = \text{Ability}$) をもっていかなる環境下でも自らのA (能力) とかP (Personality) で対処することを試みた。

この行為は私の表現では、実存主義的な行動様式で、環境に支配されない意志の強い行動であり、真の人間らしいBehaviorができることと解していたからであった。

しかし、環境というfactorを乗せずして、通常の行動は至難の技であることを体験的に理解した。その体験を機に $B = f(P \times E)$ あるいは $B = f(A \times E)$ で行動するようになった。

一方、私は衛生工学、環境工学を通じ都市ごみ、産業廃棄物、下水、し尿処理プラントに関する研究・計画・設計・運転・評価等の業務を約30年間行ってきた。

この間、産業と経済の発展は目覚ましく、そのツケが「ごみ問題」「地球環境問題」をもたらしたと感じている。

ヒトは強欲に科学性を求め、利便性を好んだ。更に瞬時性、普遍性、機能性に走った。

その結果、「公害問題」が発生し、多くの被害者がでた。その後「環境問題」という身近な「ごみ問題」からグローバルな「地球環境問題」にまで解決すべきテーマは拡がり、点から線へ、線から面へ、面から空間的課題にまで目を向ける必要が生じた。

それでは「環境問題」を解決してゆくための手法とはどのような行動なのかを共に考えてみたい。

敢えて、文明社会を科学的で且つ、機能的で、合理的で、普遍的な社会であると強引に表現するなら、文化社会は非科学的で且つ、非機能的で、非合理的で、非普遍的な社会であるということとはできないだろうか。

例えば、特定の地域で成り立つ非科学的、非機能的、非合理的社会を文明社会とは言わずに文化社会という方が適当であろう。

換言すると、利便性や機能性や普遍性や瞬時性といった豊かさを排除した行動から生ずるごみ量は現在のそれよりも極端に少なく、ごみ質も実に単純な組成で構成されると推定する。プラスチックやフロンといった文明社会の産物を使用し

ない生活であるので、ライフサイクルエネルギーは低く、エントロピー（汚染量）はいまより少ないので、より地球にやさしいライフスタイルになると思う。

「公害問題」「環境問題」は科学時代、機能時代、利便時代即ち、文明社会がもたらした産物である。

大量生産・大量消費社会を早急に見直さないと人類の滅亡は必死であり、ヒトが entropy を増大させる文明行為を加速度的に進め過ぎた結果が地球規模的課題にまで展開及び拡大させ、「持続可能な開発」(sustainable development) 以外にヒトは進展の余地なしといった国際的認識がなされている昨今、身近かなライフスタイルの改善から見直す必要がある。

$B = f(P \times E)$ に乗っ取った行動をとるとき、E を文明社会ではなく、文化社会へ転換する勇気が急務と考える。

例えば、エネルギーの塊りである自動車は貴方にとってそれほどまでに必要なのか？ 公害源の自動車、地球環境破壊源の自動車をどう取扱うか、どう位置づけるか考えていただきたい。

最後に執拗に一言。

文明的行動から文化的行動への変革が「環境問題」を解決する近道であり、利便性、科学性、合理性を追求してきた文明社会からの離脱が地球を救うと考える。文化豊かな社会創造が望まれる！

(〒636-03 奈良県磯城郡川西町結崎 330-123
TEL: 07454(3)0793 千葉 佳一 | 環境カウンセラー)

『言葉』からの環境教育

— 小学校国語教育最前線 —

北村 直也 (寝屋川市立中央小学校)

小学校2年生の国語教材に「わにのおじいさんのたからもの」(川崎洋作)がある。1人の鬼の子が、長旅の疲れで眠っているわにのお爺さんに出会う。死んでいると思った鬼の子は、一心にほうの木の葉を集めて体の回りに積んでやる。目を覚ましたわにのお爺さんは、鬼の子に自分の命をかけて守ってきた宝物の埋め処ある場所を教えてやる。鬼の子はそこでうつくしい夕焼けをみる。それをわにのお爺さんの宝物だと思うのである。その足下に宝物が埋まっているのだが、こんなストーリーである。

先日、この教材についての教材研究会を開いた席上、夕焼けに鬼の子が心を奪われるところを子供達がイメージ豊かに読み取ってくれたら、それこそ環境教育だとの話になった。私は同意しつつ複雑な思いも感じていた。



作品の中を1つ1つの、語が句が文がそっと積まれていくなかで、立体的に夕焼けの明るさと雄大さと、その崇高なまでの美しさが、鬼の子の心情そのものとして描かれている。叙情詩と言ってもいいであろう。これを美しいと感じとれること、それは「言葉」の持つ力を総動員して子供達に語りかけてくるこの作品を、子供達がどう受けとめるかと言うことでもある。例えば「口で言えないほど美しい夕焼けが、いっばいに広がっていたのです。思わず、おにの子はぼうしをとりました。」とあるが、人に自分の角を見せないようにする為にかぶっていた帽子を脱いでしまうほどの夕焼けなのである。作品を貫いている「優しさ」を子供達なりにどの様に感じ取れ、読み深められたかが言葉の世界

おにの子は、地図を見ながら、とうげをこえ、けもの道をよこ切り、つりばしをわたり、谷川にそって上り、岩あなをくぐりぬけ、森の中でなんども道にまよいそうになりながら、やっと地図のXじりし場所へたどりつきました。

そこは、切り立つようながけの上の岩場でした。

そこに立った時、おにの子は目を丸くしました。口で言えないほどうつくしい夕焼けが、いっばいに広がっていたのです。

思わず、おにの子はぼうしをとりました。

これがたからものなのだ——と、おにの子はうなずきました。

ここは、せかいじゅうでいちばんすてきな夕焼けが見られる場所なんだ——と思いました。

その立っている足もとに、たからものを入れたはこどうまっているのを、おにの子は知りません。

おにの子は、いつまでも夕焼けを見ていました。

から生まれ出る美しく雄大な自然の世界の感動体験につながる。

これを認識という言葉で簡単に片付けずに、もう一、二歩踏み込んだとき教師の中に見えてくるものがある。子供達の生活経験の貧困さである。一般的に言われる「都会」に住む子供達のいったい何人が夕焼けの美しさに感動した経験を持っているのであろうか。より極端に言えば、自然の中での遊び場所もなく、学校と家と塾の点の上の生活。そこで自分が見、考え、知り、自分のものとしていく「外界」があるのか。テレビや雑誌等のメディアから送られる情報の世界で、狭い仲間集団の世界で彼等が作り出して行く自分とはいったい何者なのであろう。そう思いながらも子供達が夕焼けを見る鬼の子と共体験をしつつ、どこまで作品世界に浸ってくれるかが指導ポイントとなる。何という矛盾であろうか。

作品の夕焼けを追体験出来る子供を育てようとするれば、どうしても国語科の枠から飛び出して子供を総合的に育てることが必要になってくる。それをすることが理性的に、科学的にという言葉を表面的に捕らえて薄っぺらく指導してきたことへの、また教科の枠の中へ子供達を縛り付けてきたことへの反省であり、子供達への贖罪であろう。

子供達を外に連れ出し、草原をそよぐ風の中で真っ青な空を流れる雲を見ながら、また珠玉の輝きを放ちながら沈む夕日の中で、子供達と一緒に感動し、彼等の中に「言葉」が生まれるのを楽しみながら、国語科の新しい世界を作り出していきたいものである。それが子供達の自然観を豊かに育て、豊かな人生を送ってくれる基になるであろうゆえに。

ドンキーホーテの見果てぬ夢かもしれないが。

日本環境教育学会関西支部 第2回 研究大会

日時：12月11日（土） 10:00~17:10

会場：大阪教育大学柏原キャンパス

（近鉄大阪線「大阪教育大前駅」下車，バスまたは徒歩10分）

ーー

日程

9:30~ 受付

10:00~10:10 開会あいさつ

10:10~11:30 特別報告（A314教室）

「ボルネオに学ぶ自然と人間の共生」

本庄 眞（奈良県東榛原小学校）

（昼 休 み）

13:00~15:30 一般報告（A215教室，A216教室）

15:45~17:00 総合討論（A215教室）

「地域社会，学校，行政が
一体化した環境教育の推進」

コーディネーター 横村 久子（奈良文化女子短期大学）

17:00~17:10 閉会あいさつ

17:15~19:00 懇親会

ーー

参加費 500円（資料代） / 懇親会費用は別（2000円）
参加申し込み はがきに、氏名（所属）・連絡先・研究会／懇親会の
参加希望を明記して、右記事務局へ送って下さい。

一般報告プログラム

〔Ⅰ会場〕 A 215 教室

- ①子どもの生活意識を変えるー4年生の子どもたちと学びあったことー
渡辺 光子（泉大津市立条東小学校）
- ②子ども達とゴミ問題に取り組んで
小島 宏美（泉大津市立浜小学校）
- ③地域自然教育の実践
本田 悦義（和泉市立南松尾中学校）
- ④中学校理科における環境教育ー地学教材の開発を例にー
秋吉 博之（兵庫教育大学附属中学校）
- ⑤環境科学科設置ーその取り組みと現状ー
宮下 和己（和歌山県立向陽高等学校）
- ⑥環境教育における行動についての研究
持木 一宏（三重大学教育学部）

〔Ⅱ会場〕 A 216 教室

- ①サイ科学情報を考慮した環境教育の新たな視点
西本 安範（立命館大学理工学部）
- ②酸性雨ネットワーク
大石 正行（堀場製作所）
- ③地域社会における環境教育ー私設「環境講座」を通じてー
千葉 佳一（奈良県磯城郡川西町教育委員会リーダーバンク登録者）
- ④神戸エコアップ研究会の活動
秦 誠（神戸エコアップ研究会）
- ⑤八尾市における環境教育とまちづくり
大西 順一（八尾市環境部環境総務課）
- ⑥河内長野市における環境教育施策
若林 次郎（河内長野市環境経済部）



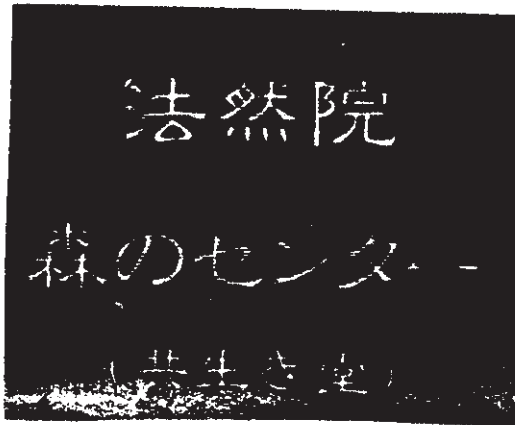
（問い合わせ先）日本環境教育学会 関西支部 事務局

〒582 柏原市旭ヶ丘4丁目698-1

大阪教育大学環境科学教育

鈴木善次研究室気付

☎ 0729-76-3211（内線3127）



フィールド ソサイエティー
〒606 京都市東山区真ヶ谷法然院町2-2
法然院森のセンター
Tel.075-752-4582 Fax.075-752-4583

- 開館時間 午前10時—午後5時(入館無料)
- 休館日 火曜日(祝日の場合は開館、翌日を閉館)
年末年始(12/28—1/5)
- 主な交通 JR京都駅・京阪電車三条駅より 市バス5系統岩倉行
浄土寺下車 徒歩10分
京阪電車出町柳駅より 市バス鶴林車庫行 浄土寺下車
徒歩10分
阪急電車四条河原町駅より 市バス32系統船場寺前行
南田町下車 徒歩5分

フィールド ソサイエティー

私たちは、自然学習プロジェクトを推進するため、1993年の春に発足しました。私たちの活動は地域の自然環境を紐解き、環境教育や地域学習のフィールドづくりを行い、その教育内容を研究し、実践していくことを目的としています。

森のセンターを活動の集台とし、21世紀に向けての地域に開かれた活動を推し進めてまいります。

フィールド ソサイエティーは下記の企画、運営を行います。

- 森のセンター(ギャラリー/ワークルーム)
- 法然院森の教室
- 森の子クラブ
- 聖山自然プロジェクト
- 会誌の発行
- 森林セミナーハウス(長野県)



環境ワークショップの話題提供者(報告をお願いできる方)を募集しております。また、どのようなテーマでのワークショップ開催が望ましいか、あるいは講演以外にどのような形式のワークショップ開催が望ましいかなど、関西ワークショップにご希望なども、関西支部事務局までお寄せ下さい。(連絡先はこの頁に掲載)

- ★ 関西ECOMAILへの投稿を募集しています。
- ★ また、ネットワーク欄への情報提供もよろしくお願い致します。

関西ECOMAIL 第号 1993年11月10日発行

通信費 一年 1000円

編集 日本環境教育学会関西支部世話人会

発行 日本環境教育学会関西支部

事務局 大阪教育大学環境科学教育 鈴木研究室気付

〒582 柏原市旭ヶ丘4丁目698-1

電話 0729-76-3211(内線3127)

次回 第19号 1994年1月10日発行予定

原稿締め切り 93年12月20日